

2006年10月期 業績について

1. 業績報告

当連結会計年度におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景として、民間設備投資の拡大や個人消費の持ち直し等、景気は回復基調で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、生産効率の向上を図るなど原価低減に積極的に取り組むとともに、新製品の開発や高品質の製品作りに努め、市場競争力を強化してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の連結売上高は15,067百万円（前期比2.1%減）となりました。また利益面では、経常利益1,398百万円（前期比14.8%減）、当期純利益874百万円（前期比15.0%減）となりました。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 猟銃事業

猟銃事業につきましては、主力の米国市場は原油高の影響による狩猟機会の減少等から購買意欲が停滞、またロシア・トルコ等の台頭、新製品投入の端境期等により受注が減少し、ショットガン、ライフルともに販売数量は前年度を下回りました。その結果、売上高は6,823百万円（前期比12.5%減）、営業利益439百万円（前期比42.4%減）となりました。

② 工作機械事業

好調な自動車・金型関連業界に牽引され、また加工部門の営業促進等により順調に推移し、機械部門、ツール部門、加工部門とも増収となりました。その結果、売上高は3,824百万円（前期比10.3%増）、営業利益871百万円（前期比19.1%増）となりました。なお、売上高につきましては、セグメント間の内部売上高50百万円を含んでおります。

③ 自動車関連事業

自動車業界は、引き続き好調で、主力の純木製ステアリングハンドルは好調であった前年の水準を維持、木目調ステアリングハンドルは前期比25.1%増、シフトノブは前期比41.8%増の増収となりました。その結果、売上高は4,437百万円（前期比8.1%増）、営業利益26百万円（前期比2.6%減）となりました。

④ その他事業

含浸木材を使用したミロモックル事業は、依然厳しい環境が続いております。売上高は31百万円（前期比14.0%減）、営業損失は9百万円となりました。

2. 次期の見通し

猟銃事業におきましては、ロシア・トルコ等の台頭により、価格競争は激化しており、上下二連銃のバリエーションモデルやボルトアクションライフルなど待望の新製品投入が期後半になる見通しであることから、引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。

次期の課題は、既存品のコスト低減活動の推進と新製品の早期立ち上げであり、平成20年度以降の業績回復に向けての足固めの年であると位置づけております。

工作機械事業は、自動車・金型関連業界を中心に引き続き好調に推移するものと予想されます。好調な市況を背景に、猟銃事業の減少をカバーすべく、販売促進に注力するとともに、安定した受注が見込めるツール・定盤部門及び加工部門の生産能力拡充を軸に、業績の維持・拡大に尽力してまいります。

自動車部品事業につきましても好調に推移するものと予想しております。装着率の増加、搭載車種の拡大に向け、生産効率の向上と新製品・新工法の開発に力を注いでまいります。

当社といたしましては、このような状況をふまえ、資本効率を追求した経営体制の確立とコスト構造の改革を図り、持株会社としてグループ全体の競争力向上に努力してまいり所存であります。